

平成 16年 3月期 第 3 四半期業績の概況(連結)

平成 16年 2月 10日

上 場 会 社 名 井関農機株式会社

上場取引所 : 東・大

コード番号 6310

本社所在都道府県 : 東京都

(URL <http://www.iseki.co.jp>)

代 表 者 役職名 代表取締役社長 氏名 中野 弘之

問合せ先責任者 役職名 財務部長 氏名 真木 康則 TEL ( 03 ) 5604 - 7671

1. 四半期業績の概況の作成等に係る事項

会計処理の方法の最近連結会計年度における : 有

認識の方法との相違の有無

(内容)

・実地棚卸は行っておりません。

・法人税等の計上基準は簡便的な方法を採用しております。

連結及び持分法の適用範囲の異動の状況 : 無

2. 平成16年3月期第3四半期の業績概況(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 15年 12月 31日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(金額の百万円未満は切り捨て)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益
	百万円	百万円	百万円
16年 3月期 第3 四半期	110,875	3,564	2,752
(参考) 15年 3月期	156,381	6,192	4,124

	四半期(当期)純利益	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益
	百万円	円 銭	円 銭
16年 3月期 第3 四半期	1,951	8. 80	
(参考) 15年 3月期	1,009	4. 56	

(注) 四半期業績の開示は、平成16年3月期第1四半期より実施しておりますので、前年第3四半期の実績は記載しておりません。

[ 経営成績(連結)の進捗状況に関する定性的情報等 ]

当社グループの第3四半期までの売上高は1,108億円となりました。この内、国内は1,036億円、輸出は72億円であります。国内では秋需要期における収穫調製用機械に若干の遅れが出ているものの、輸出は北米・欧州を中心に堅調に推移しております。コストダウン及び固定費削減等の収益改善も計画通り進捗しております。

当第3四半期の業績は、概ね中間決算発表時の業績予想通り推移しております。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本
	百万円	百万円	%	円 銭
16年 3月期 第3四半期	211,910	49,274	23.2	221.18
(参考) 15年 3月期	215,163	46,483	21.6	210.44

(注) 四半期業績の開示は、平成16年3月期第1四半期より実施しておりますので、前年第3四半期の実績は記載しておりません。

[ 財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等 ]

当第3四半期の総資産は2,119億円となり、前期末に比べ32億円の減少となりました。

主な内容は、現預金が112億円の減少、売掛債権が60億円の増加、棚卸資産が10億円の増加及び社債が75億円の減少等であります。売掛債権及び棚卸資産の増加は、農業機械売上及び債権回収の季節性によるものです。

有利子負債は前期末に比べ30億円の減少となり、前年同期に比べ219億円の減少となりました。平成16年3月期末有利子負債残高は、900億円の計画に対して約800億円まで削減が進む見込みです。

3. 平成16年3月期の連結業績予想(平成 15年 4月 1日 ~ 平成 16年 3月 31日)

通期の業績予想は、平成15年11月20日の中間決算発表時点と変更ありません。

	予想売上高	予想営業利益	予想経常利益	予想当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
通 期	158,000	7,000	5,000	2,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 11円 22銭

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。

## 四半期連結財務諸表等

### 連結貸借対照表

(単位 百万円)

科 目	当第3四半期 (平成15年12月31日)		前 期 (平成15年3月31日)	
	金 額	構成比	金 額	構成比
( 資 産 の 部 )		%		%
流 動 資 産	119,223	56.3	122,568	57.0
現金及び預金	19,775		30,989	
受取手形及び売掛金	40,613		31,984	
割賦売掛金	13,443		16,005	
棚卸資産	40,370		39,348	
その他	5,738		4,967	
貸倒引当金	718		728	
固 定 資 産	92,687	43.7	92,595	43.0
1. 有形固定資産	79,989	37.7	81,390	37.8
建物及び構築物	15,637		16,064	
機械装置及び運搬具	9,442		10,345	
土地	50,391		50,234	
その他	4,518		4,747	
2. 無形固定資産	1,076	0.5	1,129	0.5
3. 投資その他の資産	11,620	5.5	10,074	4.7
投資有価証券	6,944		6,070	
その他	5,154		4,247	
貸倒引当金	478		242	
資 産 合 計	211,910	100	215,163	100

連 結 貸 借 対 照 表

(単位 百万円)

科 目	当 第 3 四 半 期 (平成15年12月31日)		前 期 (平成15年3月31日)	
	金 額	構 成 比	金 額	構 成 比
( 負 債 の 部 )		%		%
流 動 負 債	115,396	54.5	138,466	64.4
支 払 手 形 及 び 買 掛 金	36,548		37,421	
短 期 借 入 金	60,467		72,516	
社 債 ( 償 還 一 年 以 内 )	40		8,000	
長 期 借 入 金 ( 返 済 一 年 以 内 )	9,870		9,337	
そ の 他	8,470		11,191	
固 定 負 債	45,779	21.6	28,424	13.2
社 債	480		100	
長 期 借 入 金	29,874		13,610	
再評価に係る繰延税金負債	7,131		7,131	
退 職 給 付 引 当 金	4,733		4,510	
そ の 他	3,560		3,072	
負 債 合 計	161,176	76.1	166,891	77.6
( 少 数 株 主 持 分 )				
少 数 株 主 持 分	1,460	0.7	1,789	0.8
( 資 本 の 部 )				
資 本 金	22,534	10.6	22,534	10.5
資 本 剰 余 金	11,645	5.5	11,599	5.4
利 益 剰 余 金	3,393	1.6	1,442	0.7
土 地 再 評 価 差 額 金	10,696	5.0	10,696	5.0
その他有価証券評価差額金	1,175	0.6	514	0.2
自 己 株 式	170	0.1	303	0.2
資 本 合 計	49,274	23.2	46,483	21.6
負債、少数株主持分及び資本合計	211,910	100	215,163	100

連 結 損 益 計 算 書

(単位 百万円)

科 目	当 第 3 四 半 期 自 平成15年 4月 1日 至 平成15年12月31日		前 期 自 平成14年4月 1日 至 平成15年3月31日	
	金 額	百分比	金 額	百分比
売 上 高	110,875	100	156,381	100
売 上 原 価	75,203	67.8	105,374	67.4
売 上 総 利 益	35,671	32.2	51,007	32.6
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	32,107	29.0	44,814	28.6
営 業 利 益	3,564	3.2	6,192	4.0
営 業 外 収 益	800	0.7	1,140	0.7
受 取 利 息 及 び 配 当 金	143		256	
そ の 他	656		884	
営 業 外 費 用	1,611	1.4	3,209	2.1
支 払 利 息	1,373		2,345	
そ の 他	238		863	
経 常 利 益	2,752	2.5	4,124	2.6
特 別 利 益	541	0.5	710	0.5
固 定 資 産 処 分 益	42		393	
投 資 有 価 証 券 売 却 益	62		268	
貸 倒 引 当 金 戻 入 益			48	
リ ー ス 事 業 売 却 益	341			
保 険 差 益	94			
特 別 損 失	458	0.4	3,089	2.0
固 定 資 産 処 分 損	174		636	
貸 倒 引 当 金 繰 入 額	236			
投 資 有 価 証 券 評 価 損			852	
貸 倒 損 失			1,158	
そ の 他	47		441	
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,835	2.6	1,744	1.1
法 人 税 等	821	0.7	645	0.4
少 数 株 主 利 益 ( 減 算 )	62	0.1	89	0.1
四 半 期 ( 当 期 ) 純 利 益	1,951	1.8	1,009	0.6

( ) 「法人税、住民税及び事業税」と「法人税等調整額」を「法人税等」として表示しております。

## 四半期連結財務諸表作成のための基本となる事項

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社…………… 35社 (株)井関松山製造所、(株)井関熊本製造所、(株)井関セキ北海道、  
(株)井関セキ東北ほか)

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用会社はありません。

### 3. 連結子会社の四半期決算日等に関する事項

連結子会社のうち、(株)井関セキ北海道ほか19社の販売会社の第3四半期決算日は9月30日、  
(株)井関松山製造所ほか14社の第3四半期決算日は12月31日であります。

第3四半期連結財務諸表の作成にあたっては、同日現在の財務諸表を採用し、第3四半期連結決算日との間に生じた重要な取引については連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

##### 有価証券

満期保有目的の債券……償却原価法

##### その他有価証券

・時価のあるもの……第3四半期連結決算末日の市場価格等に基づく時価法  
(評価差額は全部資本直入法により処理)

・時価のないもの……移動平均法による原価法

棚卸資産……………主として総平均法

デリバティブ……………時価法

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

##### 有形固定資産

主として工具は定額法、その他は定率法を採用しております。但し、平成10年4月1日以降  
の新規取得建物(建物附属設備は除く)は定額法。

##### 無形固定資産

定額法(但し、ソフトウェア(自社利用分)については、社内における利用可能期間(5年)に  
基づく定額法)

#### (3) 重要な引当金の計上基準

##### 貸倒引当金

一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可  
能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

##### 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、主として当連結会計年度末における退職給付債務及び年金  
資産の見込額に基づき、当第3四半期連結会計期間末に発生していると認められる額を計上  
しております。なお、会計基準変更時差異については、15年による按分額を費用処理して  
おります。過去勤務債務については、発生時の従業員の平均残存勤務期間の年数による定額  
法により費用処理しております。数理計算上の差異については、発生時の従業員の平均残存  
勤務期間の年数による定額法により、翌連結会計年度から費用処理しております。

(4)重要なリ - ス取引の処理方法

リ - ス物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リ - ス取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(5)重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、為替予約が付される外貨建金銭債権債務等については、振当処理を行っております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

イ.ヘッジ手段

為替予約取引及び金利スワップ取引

ロ.ヘッジ対象

外貨建金銭債権債務及び借入金

ヘッジ方針

為替変動リスク及び金利変動リスクをヘッジする為に、為替予約取引及び金利スワップ取引を行っております。

(6)消費税等の会計処理の方法

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

以 上

## 第3四半期業績 補足資料

### 1. 四半期業績推移

(億円)

	第1四半期 15/6	中間期 15/9	第3四半期 15/12
売上高	338	744	1,109
営業利益	0	26	36
経常利益	-3	19	28
当期利益	-3	16	19

### 2. 有利子負債削減

- 有利子負債は前年同期(14/12)比で219億円削減しました。  
今年度末(16/3末)の有利子負債残高は約800億円(前年同期比-241億円)となる見込みです。

(億円)

	14/12	15/3	15/12	16/3	
				計画	見込み
有利子負債残高	1,230	1,041	1,011	900	800

-219億円

### 3. 通期業績予想

- 通期の業績は、平成15年10月30日の業績予想発表と変更ありません。

	(連結) (億円)		(単体) (億円)	
	15/3 実績	16/3 予想	15/3 実績	16/3 予想
売上高	1,564	1,580	945	920
営業利益	62	70	33	32
経常利益	41	50	28	28
当期利益	10	25	15	14

以上



## 第3四半期業績 補足ご説明

### 1. 連結業績の季節性について

- ・当社の第3四半期連結業績は、販売会社の1～9月、井関単体及び他の関連会社の4～12月業績を連結しております。
- ・連結売上高の7割を占める国内農業機械の売上は、1～3月（第1四半期）が特に少なくなります。
- ・一方、海外売上は芝刈りシーズンを控えた第4四半期に売上が集中する傾向にあります。

国内農業機械	1,124	( 72%)
国内施設他	319	( 20%)
輸出売上	121	( 8%)
14年度実績 計	1,564	(100%)
( 国内農業機械に部品、作業機含む )		

#### 14年度四半期別連結売上高 (億円)

	第1	第2	第3	第4	合計
国内	297	397	388	361	1,443
輸出	22	27	20	52	121
計	319	424	408	413	1,564
(%)	20	27	26	27	100

### 2. 第3四半期業績の詳細について

#### (1) 四半期別・内外別売上高

		第1四半期	中間期	第3四半期	合計
15年度	国内	312	378	347	1,037
	輸出	26	28	18	72
	計	338	406	365	1,109
14年度	国内	297	397	388	1,082
	輸出	22	27	20	69
	計	319	424	408	1,151
増減	国内	15	-19	-41	-45
	輸出	4	1	-2	3
	計	19	-18	-43	-42

## (2) 国内売上高

- ・国内売上高は1,037億円となり、前年同期比45億円減少しました。
- ・このうち、農機は計550億円、部品・作業機も229億円で対前年同期比横ばいとなっており、減収はその他の商品によるものです。
  - 前年度(14年度)北海道で大型乾燥施設売上が36億円あった反動で、施設の売上が34億円減少。
  - 前年度実施した不採算事業の整理により、建設・フラワー事業等で9億円減少。
- ・商品別には、トラクタ等の整地機並びに田植機等の栽培機が増加しているものの、コンバインを中心とする収穫調整機械が減少しております。

(国内商品別売上高) (億円)

	14	15	増減
整地機	233	235	+2
栽培機	87	96	+9
収穫調整機	230	219	-11
農機計	550	550	0
(内、野菜作機械)	(12)	(14)	(+2)
部品、作業機	229	229	0
その他	303	258	-45
合計	1,082	1,037	-45

## (3) 海外売上高

- ・海外は北米を中心に3億円増加しました。

(億円)

	14	15	増減
北米	26	29	+3
欧州	23	23	-
アジア	4	3	-1
豪州他	1	2	+1
製品計	54	57	+3
その他	15	15	-
合計	69	72	+3

### 3 . 通期業績予想について

第4四半期については、なお為替等の不透明な要因があるため、通期業績予想は修正しておりませんが、現時点での見通しを補足しますと次の通りです。

- 1 . 売上高は、施設事業の減少等が響き、計画に対し40億円程度の未達となる見通しです。  
なお、国内農機製品については前期並み水準を確保、また輸出については計画を上回る増収となる見通しです。
- 2 . 営業利益は、コストダウンの進捗により、前期比増益は確保できるものの、売上減により計画70億円を若干下回る見通しです。
- 3 . 経常利益は、財務構造改革による営業外収支改善効果（計画比+約4億円）が寄与し、計画50億円を確保できる見通しです。
- 4 . 当期純利益は、計画25億円を充分上回る見通しです。

以 上